

世界と地域をつなぐ

ニュースレター

お役立ち情報紙

Vol.26 2010 春 財団法人豊田市国際交流協会(TIA)

TIAの事業には大きな3本の柱があります。それは「国際交流」、「多文化共生」、そして「国際理解教育」です。「国際理解教育」事業について小中学生や現場の先生方にも参加していただけるメニューを用意しておりますので、ぜひ積極にご活用ください。

本ニュースレターは国際理解教育分野における新しくユニークな試みなど、耳寄りの情報を学校や地域でワークショップを実践している方々にお届けしています。

1 平成22年度も小学生国際理解教育事業を実施します

財団法人豊田市国際交流協会(TIA)と豊田市教育委員会は平成20年度から「小学生国際理解教育事業」を実施しています。本事業では小学生はとよたグローバルスクエア(豊田産業文化センター3階)で国際理解教育授業を受けます。スクエアは100人以上の児童が入れる広いスペースや、103インチのプラズマテレビ、AVシステムなど、国際理解教育の拠点として十分な機能を備えています。

平成21年度は市内9つの小学校の、のべ742人の児童参加を得ることができました。本年度も、学生を中心とする市民ボランティアによる授業実施グループはそれぞれ授業に工夫を盛り込み、国際感覚豊かな授業を展開しました(写真を参照)。

平成22年度も引き続き本事業を継続していきます。市内の全小学校に事業案内をしたところ、平成22年2月末現在7つの小学校から申込みがありました。TIAとしてはより多くの小学校へ国際理解教育授業の機会を提供したいと考えておりますので、4月以降も事業への参加申込みを受け付けます、ご検討ください。多くの小学校に参加していただき、児童たちが国際理解教育に触れる機会を増やすことができればと思っております。

小学生国際理解教育事業の事業案内・申込書を1月下旬に市内の全小学校にお送りしておりますのでご確認ください。案内が見当たらない場合はTIAまでお問い合わせください。 問合せ：豊田市国際交流協会(担当：斎藤)



左下の写真のように外国語のあいさつが書かれたカードをそれぞれの児童が持ち、異なる国の人になりきってあいさつをして回るワークショップ。カードにはいろいろな仕掛けがあり、一つは世界における人口比率をクラスの中で疑似体験できる仕組みで、「中国人」になった児童の数が一番多くなる。楽しみながら、体を動かしながらの授業で児童たちの印象に残りやすい。(愛知淑徳大学)



カンボジアの子どもたちに布製のボールや人形をおもちゃとしておくるNGO活動に児童たちが参加できるワークショップ。児童たちが裁断した布は材料としてカンボジアに送られ、現地の女性たちがおもちゃに仕上げる。女性たちには「幼い難民を考える会」から報酬が支払われ、農村女性の地位向上にもつながっている。国際協力に直接自分たちもかかわることができ、高い教育効果が期待される。(幼い難民を考える会あいち)

2 もう「なごや地球ひろば」へは足を運ばれましたか？

●「なごや地球ひろば」とは？

日本のODA(政府開発援助)で大きな役割を果たしているJICA(ジャイカ:独立行政法人国際協力機構)の中部国際センター(JICA中部)が、2009年3月に名古屋駅から徒歩圏内の「ささしまライブ24地区」へ移転しました。新JICA中部は本来の国際協力分野での機能に加え、「市民が気軽に訪れ、国際協力について知ってもらい、理解してもらう施設」という機能を持つように設計されました。それが「なごや地球ひろば」という形でオープンしました。

●国際理解教育に役立つ4つのゾーン

ひろばは4つのゾーンから成り立っています。「体験ゾーン」では、世界が直面する地球的規模の課題など、国際理解



地球案内人は全員JICAボランティアのOB・OGの皆さんで、世界の途上国の様子をその身をもって体験した「途上国案内人」でもある

教育に有益な情報

や展示に多く触れることができます。特に展示は小学生にも親しみが持てる設計で、楽しみながら学べる仕掛けになっています。また、「地球案内人」なるガイドが常駐し、来訪者の疑問に答えたり、展示だけでは分かりにくいところを丁寧にフォローしてくれたりします。

「食のゾーン」として「カフェ・クロスロード」が設置されています。ここはJICA中部に用事がない人でもふらっと立ち寄れるエスニックレストラン。JICAならではの「本場」のエスニックフードをお手軽な値段で楽しむことができます。また、ここは海外からの技術研修員の食堂でもあり、隣の席にその皆さんが座ることもあるかもしれません。少し勇気を出して声をかければ、ちょっとした国際交流ができるかもしれませんね。

その他「買物ゾーン」としてフェアトレードショップ「フェアビーンズ」が営業しています。「活動ゾーン」では国際理解教育実践者のための研修や、国際理解教育のトピックに役立つ内容の講演などが年間を通して行われています。

●訪問プログラムにも対応 ～H21年度には豊田市立若園中学校が訪問～

学校の先生にうれしいのはこのひろばが「訪問プログラム」への対応ができることです。もちろん何を学びたいか、という主体性が不可欠ですが、「体験ゾーン」での学習を中心に、国際協力にまつわる国際理解教育プログラムをアレンジしてもらえます。また、施設利用自体は無料です。JICA中部周辺には「産業技術記念館」や「名古屋市科学館」などの施設もあり、社会見学として「なごや地球ひろば」訪問にとどまらないプランを考えることができます。プログラムへの実際の参加など、詳しくは「なごや地球ひろば」のホームページを参照するか、JICA中部までお問い合わせください。



若園中学校の生徒が訪問した時の様子、世界の人口(推定値)を毎秒単位で刻む「人口時計」の説明を受ける。説明を聞いている間にも千人、2千人の人口が増えていく。

●問合せ

JICA 中部 「なごや地球ひろば」

TEL : 052-533-0121

ホームページ :

<http://www.jica.go.jp/nagoya-hiroba/index.html>

長らくご愛読いただいた本誌ですが、来号より国際理解教育に関する情報についてはTIA機関誌「GLOBAL INFO」で提供することとなりました。



JICA中部に「なごや地球ひろば」が入る